

地域の通信

わ

区政推進課 地域力推進担当 411-7026

神之木西寺尾
ぽっかぽか。

主催：神之木西寺尾連合自治会

協力：神奈川地区センター・神之木地域ケアプラザ・
神之木西寺尾地区社会福祉協議会

「ぽっかぽか。」を運営する仲間たち

『子どもも大人も安心してすごせて、おじいちゃんもおばあちゃんもわいわいご飯を食べて、障害があってもなくてもみんな仲良く、赤ちゃん連れたママも先輩ママの話聞いて、働いているママも今日も息抜き、そんな日あってもよいじゃない？ちょっときてみて寄ってみて、心ポカポカ帰りましょ』

（「ぽっかぽか。」のチラシから引用）

活動者の熱い思いが地域の力になる



親子で夕食を楽しむ姿があちこちに

神奈川区でいち早く子ども食堂として始まったのがこの「ぽっかぽか。」平成29年5月からスタートし、今年で3年目を迎える。毎月、神之木地区センターと神之木町町内会館の2カ所で月に各1回開催し、常時30人ほどが訪れる人気の子ども食堂になっている。

きっかけは、運営スタッフの主任児童員である中畑さんと小林さんが、社会的課題である子どもの貧困に強い関心を持ち、自らが住む街で支援につながる「子ども食堂」を開催できないかと考えたのが始まり。その企画を真っ先に相談したのは、神之木西寺尾地区の佐藤連合会長だった。二人の熱心さに心打たれた佐藤会長が開催に向けて尽力してくれた。

今でこそ盛況だが、オープン時は参加者が3人だけの時もあったと言う。「山のように残ったカレーの鍋を見て途方にくれました」と中畑さんと小林さんは、その当時を思い出して苦笑いする。



神之木西寺尾地区・佐藤連合会長

人が人を呼ぶ子ども食堂



今夜はメニューは中華でホカホカの出来立てをいただきます！

活動資金としては、スタートの年には区社協のふれあい助成金を使って備品を揃えた。それ以降は、地区連合自治会や地区社協から支援をもらっている。

PRは、西寺尾小学校、西寺尾第二小学校、錦台中学校の全生徒と、神之木西寺尾地区内の単会の町内会すべてにチラシを配っている。3人から30人へ利用者が増えてきたのは、チラシと口コミの効果のようだ。「とても嬉しいことは、利用した人が友人を誘って一緒にきてくれていることです」と中畑さんは言う。

地域のつながりが食堂の力に



「できることでお手伝いができて、やりがいがあります」と食事ボランティアのみなさん

【ぽっかぽか。】

開催日時：①第1水曜日

②第4金曜日

いずれも17時～20時

会場：①神之木地区センター

②神之木町町内会館

利用料：子ども 100円

大人 200円

運営スタッフは、事務局長に佐藤会長がなり、運営は、主任児童員の中畑さんと小林さんを中心に、食事づくりを担当するボランティアさんらで構成されている。

食事づくりをメインに担当するボランティアは、地域のつながりで得た人材だ。子どものつながりのママ友達、自分ができることで地域活動したいと考えて参加している方、そして子ども食堂に興味があり、区社協のボランティアセンターを通して参加している方などである。

親子での参加が多いことが「ぽっかぽか。」の特徴でもある。子どもの食事支援だけでなく、ママたちの交流の場にもつながっているようだ。「子どもも私も、友人とおしゃべりしながらの夕食はホントに嬉しいです」と参加していたママは笑顔で話してくれた。子どもの貧困問題に関心を持ったことをきっかけに始まった「ぽっかぽか。」は、日を追うごとに地域交流や子どもを見守る居場所になりつつあるようだ。「ここでお母さん同士が交流できることで、子育てに余裕ができています」「次の担い手にバトンを渡せるまで、会話のある楽しい夕食を子どもたちに提供していきます」と、中畑さんと小林さんの二人の明るい笑顔が輝いていた。